

子ども防災ネットワークおかやま宛 申込書 兼 ヒアリングシート

防災体験プログラム＜地震が来たらどうする？＞

お申込施設名	
住所	〒
電話番号	
ファクス番号	
メールアドレス	
代表者氏名・連絡先	電話番号
担当者氏名・連絡先	電話番号
参加者(年齢) 対象は年長さんです。 ※年少・年中さんの見学、 保護者の見学のご希望な どあればご記入下さい	
会場について	包帯づくりの時のみ机が必要。会場仕様によっては開催順や内容を変更します
実施希望日、曜日	原則として9時にお伺いし、10時開始11時半体験終了が目安です
駐車場について	通常、スタッフ2～3名で伺います
当日の撮影について	記録などのため当日の様子の写真撮影をご許可いただければ幸いです

上記にご記入の上、
事務局までファクスで
お送りください。

子ども防災ネットワークおかやま 事務局
〒700-8569 岡山市北区駅元町 6-26 こくみん共済 coop <全労済>内
TEL 086-254-0995 FAX 086-250-0210 担当:羽田野、大東

子育て支援事業などに取り組む一般社団法人チカク（倉敷市阿知）、全労済県本部（岡山市北区駅元町）などは、子ども向けの体験型防災教育プログラムの開発、普及に取り組

んでいる。11月に倉敷市の保育園でモデル授業を開催。その模様を収めたビデオを使って3日、防災教育セミナーを岡山市で開く。（大橋洋平）

卵の殻踏み「がれき」体験／シーツで包帯作り

早くから防災意識を

子ども向けプログラム開発、普及

卵の殻を踏み、がれきの危険性を学ぶ園児。11月、若竹の園



プログラムは東日本大震災を教訓に、幼児期から災害への対応力を養うのが狙い。全労済県本部が社会貢献活動として企画し、チカク、NPO法人子ども

劇場県センター（岡山市北区表町）などが協力を。危機管理アドバイザー国崎信江さん、横浜市を講師に内容を

11月、倉敷市中央の

倉敷・チカクと岡山であすセミナー

保育園「若竹の園」で開かれたモデル授業は園児約50人が参加。シートに敷き詰めた卵の殻約200個分の上を恐る恐る歩き、「痛い」「足に刺さった」と声を上げた。国崎さんが「これがガラスだったら？」と問い掛けると、「危ない」「血だらけになる」。園生活で素足が多い幼児に、がれきの危険性を伝えた。

破ったシーツでの包帯作り、頭を守る「ダンゴ虫のポーズ」にも挑戦。国崎さんの軽快な語り口で盛り上がりながら、園児たちは災害の恐ろしさや対策、周囲への気配りなどを学んだ。

国崎さんは「体験させることで災害時にま

4-2155）。

ず体が動く。人格形成の鍵を握る幼児期だからこそ、こうした教育の効果は高い」と話す。

防災教育セミナーは3日午前10時から、岡山市北区駅元町のママカリフォーラムで開催。モデル授業のビデオを見て防災教育について考える。定員250人。無料。

セミナーで出た意見はプログラムに反映。チカク、子ども劇場のスタッフが来年1月から、希望する保育園や幼稚園を巡り、プログラムに基づく授業を実演する。

チカクの赤木美子代表は「堅苦しすぎず、幼くても興味を持つ手法で、子どもたちに生きる知恵を教えたい」と話している。

問い合わせは全労済県本部（086-2155）。

